

大同工大キャンパス

No.65

2008.7

DAIDO CAMPUS

02 学生の勇姿 / 05 元気印の卒業生⑩ / 06 第43回宴祭「DIVE」 / 07 春のオープンキャンパス
08 ニュース / 10 トコトン先生大活躍 / 14 就職トピックス / 14 金属工房 / 15 新任教員紹介
15 DIT スケジュール / 16 DIT CAFE ⑤ / 16 新刊書出版 / 16 人事



写真提供：アルバム委員会



次をつくる人をつくる

大同工業大学

**学生の
勇姿!**

及川大樹君 (機械工学科3年)

濱田竜士君 (機械工学科3年)

**東海テレビ「夢、未来!」出演
キラリ、光る。**

5月4日(日)、壁にぶつかりながらも、夢を叶えようと一生懸命がんばっている学生の姿を紹介する、東海テレビ「夢、未来!」の記念すべき第一回放送に、ラグビー部の及川君が登場しました。

昨年9月30日(日)、試合で顔面陥没骨折の大怪我を負った彼が、ラグビーへの熱い想いと仲間の友情のおかげで、恐怖心に打ち勝ち、キャプテンとして今チームを引っ張っている様子を紹介。及川君の光る笑顔が印象的でした。



及川君



濱田君

6月15日(日)、2006年男子U-19日本代表選手として、アジア大会に出場した、ハンドボール部の濱田君が登場。

「現在の目標は、東海リーグで優勝し、西日本インカレ、全日本インカレで結果を残すことです。そして将来の目標は、実業団でプレーし、日本代表を目指します!」と力強く話す彼の顔には爽やかな汗が光っていました。

朝倉誠哉君 (建築学科4年)

**おばあちゃんからの
感謝の手紙**

6月の始め、本学学生室に手紙が届けられました。届けにみえた60歳前後と思われる男性の方が「学生さんに私の母親を助けてもらいました」と言われる。詳しく伺うと、90歳になる母親がJR大高駅から本学に迷い込んで来てしまったところを、朝倉君が声を掛けてくれ、さらにわざわざ自宅まで送ってくれたとのこと。朝倉君のまっすぐな人柄と優しさに本当に喜び、感謝していました。



朝倉君



杉山君

自動車部

**全中部学生ジムカーナ
選手権大会で3位に**

5月25日(日)、岐阜県ダイナランドスキー場の特設会場で開かれた大会。3位に輝いた本学自動車部…だが部員たちはというと不満顔。それもそのはず、昨年はこの大会で優勝しているからだ。「今大会の不満は今大会で出場権を獲得した「全国大会」で早速晴らしてみせます。目指すは、9年ぶり2度目の全国制覇です!」と副部長の杉山良平君 (機械工学科3年)、力強く話してくれました。



河合孝子さん（情報機械システム工学科4年） 中日新聞(6/12)に掲載される。

聴覚に障害を持ちながらも高校の数学教師を目指して教育実習に励む河合さんの姿が、6月12日(木)の中日新聞夕刊に紹介されました。

河合さんは小学6年生の時、病気で耳が聞こえなくなりました。中学時代は授業についていけず、学校を休みがちの時期もありました。しかし高校3年生の時、得意だった数学を教えてあげると、「すごくわかりやすかった」と友人は感激。「耳が聞こえなくても教えられるんだ」。それがきっかけで、あこがれだった教師になることを志しました。

努力し、大学に合格。黒板を一つ残らず書き写したり、教授の研究室に足しげく通ったり

と、大学でも持ち前のがんばりを発揮し、障害を克服しました。

そして、6月2日(月)から愛知県立豊橋聾学校で教育実習が始まりました。使うのは指文字と手話、そして口の動きだけ。生徒からは「説明がわかりやすい」「一生懸命でいいい」に教えてくれて問題が簡単と感じられた」と好評。河合さんは「教えるのは難しい」と悩みも見せましたが、生徒と毎日ふれあえる喜びも実感できたそうです。

実習後は、「難関だが、来春には教壇に立ちたい」と、7月の教員採用試験合格を目指し奮闘しています。

生徒の声 心で聞く

耳不自由な河合さん

豊橋聾学校 教員を目指し実習

「一生懸命でいいい」に教えてくれて問題が簡単と感じられた」と好評。河合さんは「教えるのは難しい」と悩みも見せましたが、生徒と毎日ふれあえる喜びも実感できたそうです。

DIT 学生が地域イベント 「春のかさでらまつり」で大活躍!



5月24日(土)、今にも雨が振り出しそうな曇り空の下、南区笠寺商店街主催「春のかさでらまつり」が開催されました。

このイベントは、地域一丸となって笠寺の町を盛り上げよう!というもの。

その中の一つ「ジオラマワークショップ『まち建』」は、笠寺の白地図の上に参加者たちの手で住宅や商店、ビルなどを作り、5m×3mという大きなジオラマを作ろうという企画。その依頼を受けた本学建築学科3年 井出輝峰君、小川真玄君、磯谷大樹君、池谷翔君の4人は、「2週間」という短期間で、企画、事前準備、当日の運営、さらにはCBCラジオ生出演でPRま



ラジオ出演する笠間君と福井君

でも担当することに…。

しかし、まず企画の段階で意見が合わず足踏み状態。いざ準備を始めてみれば、材料が思うように揃わず悪戦苦闘。授業後、笠寺まで何度も自転車で行ったり、深夜まで会場の大掃除をしたり、土台作りで徹夜をしたり…と、頭も身体も使って準備をした2週間でした。

当日は、悪天候にも関わらず、地域の子もたちやおばあちゃんたちが参加してくれました。会場には、楽しそうに模型作りをする子どもたちの表情と、サポートする彼らの笑顔。どうなることかと心配していましたが、なんとか無事終了することができました。

イベントが終了した日の夜、届いた彼らからのメール。「いろいろあったけど、いい経験になりました!」

たった2週間という短期間に、彼らの意識の高さ、責任感、優しさ…などたくさん発見できました。

言葉通り「いい経験」となるイベントでした。また、笠寺商店街のイベントではすっかりお馴染みとなっている、本学広報研究会も得意のカードマジックや、タロット占いで会場を大いに盛り上げてくれました。



ダンス部 第28回中部日本学生競技ダンス ラテン選手権大会で 見事3位に!

5月11日(日)、津島文化会館で開かれた大会で、勝川佳和君(情報学科4年)伊藤みちかさん(愛知教育大学4年)ペアが、総合(チャチャ・サンバ・ルンバ・パソ)で見事3位に輝きました。日ごろの練習だけでなく、年に数回開かれるDIT体育館での大きな大会運営等、様々な努力が花開きましたね。おめでとう!





ロボット研究部

イベント・大会と大忙し! イベントに協力参加



4月20日(日)、日本ガイシホールでは「南区100周年記念イベント」が、またトヨタテクノミュージアム 産業技術記念館では「発明の日 わくわくフェア」が開かれ、それぞれにロボット研究部が協力依頼を受け、参加しました。

南区100周年記念イベントでは、3人のロボ

ロボカップサッカー参戦

DITサッカーロボットチーム DIT-RCは、5月3日(土)～5日(月)に静岡県沼津市で開催されたロボカップジャパンオープン2008に参加しました。自律移動型の中型リーグは国内7チームが参加。海外から参加した1チームはロボットが届かないトラブルに見舞われ残念ながら欠場となりました。

DIT-RCは2004年度の初参加から今大会は5度目になり、広いコート(18m×12m)に対応した新型ロボットを登場させました。3日間にわたる総当たり戦では入賞することはできませんでしたが、各チーム混成のエキシビションでは、DIT-RCのロボットがボールをキープし

2足歩行ロボットの大会を共同開催

ロボット研究部は、他大学、(株)ロボネット、イオン(株)の共催で5月3日(土)にイオン名古屋みなとベイシティショッピングセンター(名古屋



研部員が二足歩行ロボットと空中ブランコロボットで体験型ブースをオープン。子どもからお年寄りの方まで幅広い来場者、たくさんの皆さんにロボットの魅力と日ごろの成果を伝えました。

また、発明の日 わくわくフェアでは、「工作教室～働く車を作ろう!～」を担当。ロボ研部員10人で、司会進行・製作のお手伝い・会場整理まで、(150人の子どもたち+親御様)×3回(1回:2時間)を対応しました。「遊びながら楽しくものづくりに取り組み、そして学ぶ」をモットーに、朝方まで活動しているタフな彼らでも、さすがにクタクタに疲れたようです。昨年に引き続き2回目の協力参加を引き受けた彼らは、常に自分たちの可能性を広げる場所を求めているように見えました。

てゴール前に運ぶ場面(写真の水色マーカー)が何度もあり、観客にも良いパフォーマンスを見せることができました。

来年度は、これまでのゴールが変更され、色が無くなってネットのみとなるなど、ルールがさらに厳しくなりますが、新しいシュート機構を備えた新型3輪ロボットでチャレンジしたいです。



市港区)にて2足歩行ロボットの大会“ROBO★CHAMP”を開催しました。この大会は第14回ROBO-ONEの決勝出場権認定大会となるため、全国から24台のロボットが集まり、午前と午後に分かれてトーナメント形式の試合を行いました。ロボット研究部からは審判を含む6人の運営委員と3台のロボットが参加し、観客たちを沸かせていました。

今回の会場はショッピングセンター内ということもあり、2足歩行ロボットを見たことがない買いもの客や子どもたちが多く、休憩の時間もロボットを身近に見て楽しんでいました。



たくさんの人が
ロボットに興味を持ってくれました!

私が空中ブランコロボットを先輩より引き継いでから、今回が二回目の参加。多少緊張もありながらイベントはスタートしました。しかし1時間もしないうちにそんなことは考えていられなくなりました。本学のブースは子どもだらけに。子ども達は説明すると喜んで空中ブランコに触れて興味を持ってくれたので私は嬉しい限りでした。また一緒に来ている保護者の方たちも興味をもってくださいました。波は終盤まで続き忙しかったのですが、たくさんの人がロボットに興味を持っていたので大満足の1日でした。 佐野伸幸(情報機械システム工学科4年)

クラブ委員会主催

クラブ対抗ボーリング大会



6月14日(土)、名古屋ロイヤルボウルにて、総勢120名を集め、第13回クラブ対抗ボーリング大会が開催されました。大会は、高山学生部次長の始球式(思惑通りのガーター?)で幕を明け、その後、各レーンで盛り上がり会場全体は一気に熱気に包まれました!

あるチームは、一人がストライクを決めるとハイタッチで盛り上がり、あるチームはスコアがなかなか伸びないせいか、意気消沈していました。しかし、どのチームもこの大会をしっかりと楽しみ、クラブ委員会の一番の狙いである、クラブの上下及び横の連携強化に効果があったと思います。

今回のボーリング大会は、アルバム委員として、撮影で裏方の視点で各クラブを見つめることができました。今まで気づかなかった、各クラブの特徴が見れた気がして面白かったです!今後もしっかりと皆さんの活動をフィルムに収めていこうと思います。

アルバム委員会 西野 生
(情報学科 情報ネットワーク専攻3年)



加藤真史さん 電気電子工学科(平成18年3月卒業)

DIT で学んだクリーンエネルギー分野でイチゴ栽培に挑戦!



在学中、指導教員としてお世話になった水野教授(保健体育教室)へ

学生時代はアルバイトの日々を過ごしていたという加藤さん。「働く」という経験を通じて、自分で何か経営をしたと思うようになり、大学卒業後、1年間の農家研修を経て昨年からはイチゴ栽培を始めました。

早く仕事がしたくて、夜明けと共に目が覚めることも。毎日ハウスに通って、誰よりもイチゴを見ることを心がけています。

「仕事は楽しいです。イチゴの成長を見るのが楽しくて、花が咲いた時は『自分が育てたんだ』と実感しました。」

なかなか休みの取れない日々ではあるが、休日には家族サービスを楽しんでいます。「疲れて帰ってきて、子どもの顔を見ると疲れが飛んでいきますね」。家族の幸せな顔が加藤さん

の支えになっているようです。

高校教師になった友達が、甲子園を目指す夢を持ってがんばっており、よい刺激になっているそう。

「重油価格の高騰で厳しい状況ですが、大学でクリーンエネルギーについて勉強してきたので、いずれは自家発電にも挑戦していきたい」と家族に感謝しながら、新たな可能性に挑んでいます。



金子貴敏さん 建築学科(平成20年3月卒業)

「東海学生卒業設計コンクール2008」で、見事金賞。

昨年度卒業生の金子さんが、(社)日本建築家協会東海支部主催の「東海学生卒業設計コンクール2008」で金賞を受賞しました。このコンクールは、東海地区の大学・高専・専門学校の卒業設計を集め、審査されるもの。実社会で活躍する建築家と、建築を学ぶ学生との交流の場を作り、優れた後進の育成を目指そうと実施しています。

金子さんが出品した卒業設計は『図書のとおり』と題した作品。1次審査(図面のみ)を突破し、

6月14日(土)に行われた公開最終審査(図面、模型、プレゼン)で見事金賞を受賞!この作品は、学内の卒業研究発表会でも金賞を受賞、また3月に開催された「せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦2008」でも全国12位という成績を残しています。

今回のコンクール入賞者には全国大会への出場権が与えられます。4月から設計事務所で働き始め、忙しい日々を送る金子さんですが、全国大会も目指すとのこと。「自分の感覚を大事にして、卒業設計のときのようにこれからも仕事にコンクールに楽しんで取り組みたいと思います」と最後に笑顔で話してくれました。



在学中、授業でプレゼンしている金子さん



現在金子さんが取り組んでいる現場



第43回 宴祭

「DIVE」～星屑メドレー自由型～



5/31(土)・6/1(日)、“誰もが飛び込んでいける大学祭!”という意味を込めた「DIVE」をテーマに、第43回宴祭が開催されました。

1日はあいにくの「曇のち雨」。それでもみんなの熱い気持ちに押され、簡易テントを張ってステージ企画を強行! 雨にぬれながらも盛り上がる学生たちや傘をさしながらブースを回る親子連れ…雨でもたくさんの人たちが参加し、楽しんでくれました。

2日は見事に「快晴」! ステージでは、音楽研究部や吹奏楽団、チアリーディングなど大盛り上がり。子どもたちには「わらべ村」のふわふわやゲームコーナー、ロボットコーナーが大人気。お昼時のブースはクレープを求める行列も…。滝春キャンパスが笑顔であふれました。





後夜祭のプロコンサートは、「HIGH and MIGHTY COLOR」が登場! なんと、会場の滝春グラウンドからローソンまで長蛇の列ができるほどの大盛況。

最後は、歌あり花火ありレーザー光線あり…のステージ。今年も最後の最後まで楽しませてくれる大学祭でした!



春のオープンキャンパスで 学スタ大活躍!



相談を受けている学スタの川角匡央君
(都市環境デザイン学科4年)

今年も大学祭と同日(5/31・6/1)に、春のオープンキャンパスを開催しました。

今回は、例年の個別相談会に加え、教員による大学説明会、学生スタッフによるキャンパスツアーと相談カフェ、さらに映像で見る大同工業大学と盛りだくさんのメニューを展開。特に印象的だったのが、学スタの笑顔。イキイキと高校生をもてなす彼らは「自分たちのキャンパスをたくさんの人に紹介できてうれしかった」「入学前の自分を思い出して、新鮮な気持ちになった」「相手の気持ちになって、物事を考える大切さを再確認した」と話してくれました。また、案内された高校生のアンケートからは「先輩の生活(なまばなし)がダイレクトに聞けてうれしかった」「親切にわかりやすく案内してくださってよかった」、中には「丹羽さんの笑顔、最高!」という、具体的な回答も…。

学スタにとって今回のオープンキャンパスは、自分たちの学生生活を学外に発信するよい機会となったようです。次回オープンキャンパス(7/27夏)も、彼ら自身のモチベーションを刺激するイベントになることと思います。

NEWS

佐藤義久研究室 (電気電子工学科)

名古屋市立大学病院に 都市型風力発電システム設置に向けて

佐藤研究室では、現在、名古屋市立大学病院に、環境にやさしい都市型風力発電システムを設置するための研究を行っています。都市型風力発電システムは、どの方向からの風でも発電するのが特徴で、名市大病院のビル間に吹くビル風を使って発電することを考えています。都市型風力発電システムの設置には、どれくらいの強さの風が吹いているのかを調べる「風況調査」が重要となります。風況は、場所が5m違うだけでも大きく変化するため、風況調査を行うには莫大な時間と労力とお金がかかります。都市型風力発電システムを普及させていくためには、この風況調査の簡略化が重要です。そこで、私たちの研究室では、風況調査の簡略化のために名市大病院の模型を製作し、施設内のどの位置の風が強いのかをシミュレーションしています。まず、1/200の模型をベニヤ板と発泡スチロールとダンボールを使って製作します。



名市大病院の模型

製作した模型に、扇風機などで風を当て施設内のどのあたりの風が強いのかをシミュレーションします。また、季節の違いによる風の方向の違いを考慮していろいろな方向から風を当てて各季節の風の強さの違いなども調べる予定です。

さらに、実際に名市大病院でも風況調査を行います。風速や、風向、太陽の当たり具合などを調査します。これは、模型を使ったシミュレーションと、実際の施設内での風況の違いを見て、どの程度模型を使ったシミュレーションが正確性なのかを調べます。実際に吹く風は、施設内だけではなく、他のビル等の影響も受けると考えられます。そこで、施設内での風況

調査の結果をもとに、模型をどの程度作ればシミュレーションできるのかを見極めたいと考えています。この2つの調査によって、どの場所に風車を立てれば、最も多く発電できるのかを調べます。

研究は、学部生6人、大学院



風況調査の様子

生3人の合計9人で行っています。風況調査は、1回の測定が4～6時間程かかるため、毎回2～3人でチームを組んで交代制で行います。模型の制作は全員で行い、模型での風速の測定方法なども検討するとともに、気象庁などで提供されている風のデータから、実際にどの程度の風が1年を通して病院内に吹くのかをシミュレートしています。このような実験や調査を経て、12月末までに3台の都市型風力発電システムを設置する予定です。



大学院工学研究科
修士課程電気・電子工学専攻
2年 鈴木将史

五島利兵衛研究室 (建築学科)

建築学科五島利兵衛研究室主催

国際交流フェロー特別講演「ウクライナ建築について」開催



講演の様子

6月4日(木)、本学白水校舎造形室にて「ウクライナ建築について」と題した特別講演が五島研究室主催で開かれ、建築学科の学生・教員20人が参加しました。

講演者はウクライナのキエフ国立建築建設大学准教授シェフツォーバ・ガリーナ女史。流

暢な日本語で講演されました。ウクライナ各地域の特色ある建築・教会堂について多くのスライドを用いて丁寧に説明されました。講演要旨は次の通りです。

(1)ウクライナは、中心の地域、東の地域、西の地域、南の地域の4つに分けられる。

(2)建築的には、木造建築と石造建築の2つの流

れがある。

(3)木造建築は、ウクライナの民族の伝統的な建築に根ざしたものである。

(4)木造教会は、校倉式である。

(5)教会の祖形は、民家にあるとも、倉にあるとも

(6)木造教会の平面形式は「民家型」「三部構成型」「十字形型」の3つがある。

(7)「民家型」は3部屋形式で、中央のネフの空間が大きくなったものが「三部構成」であるが、独自の祖形があるかも知れない。

(8)これらは、校倉形式のため、ともに各部屋が正方形か、集中式(多角形)になっている。

(9)木造の「十字形型」は、アルメニア石造建築を通じて流入したビザンチン建築の影響によって生まれたものであると言われる。

(10)十字形(五部構成)が全体的に矩形型へと進化し、屋根に対応する平面を要素として考えると、七部、九部構成に発展している。

ガリーナ女史は、ウクライナと日本の木造建築の比較研究を専門にされ、国際交流フェロー基金により1年間、日本の大学に留学し、本学の講演を最後に、6月26日帰国されました。



都市環境デザイン学科

大同工業大学・矢作建設工業株式会社主催
「土壌環境フォーラム「土壌汚染と不動産評価」を開催

6月5日(木)、大同工業大学・矢作建設工業株式会社主催の下、メルパルク名古屋で土壌環境フォーラム「土壌汚染と不動産評価」が開催されました。企業経営者など150人が参加したフォーラムでは、土壌汚染地の不動産評価をどう高めるかをテーマに事例発表やパネルディスカッションが行われました。

開会挨拶では、宇宙航空開発機構(JAXA)の技術参与でもある本学澤岡昭学長が「土壌汚染問題は生活と経済に密接した重要な課題」と今回のテーマについて述べ、地球を飛び出た国際宇宙ステーション(ISS)にも領土(土地)があり、日本の研究施設「きぼう」がついたことで、

国際宇宙ステーションにも日本の土地ができたことを説明しました。

続いて、大東憲二教授(都市環境デザイン学科)より「都市資産としての不動産の重要性」と題し、空き地として何年も放置されている事例を挙げ、汚染物質があっても健康リスクが軽減できれば、法の趣旨に沿っている。汚染土壌を全て取り除く掘削除去が主に行われてきているが、その他の対策方法でも、土地の利用計画を立案し建築物を含めた不動産評価を行う必要があると基調講演しました。

その後のパネルディスカッションでは、大東教授がコーディネータを務め、土壌汚染問題を



大東教授



澤岡学長

抱えた土地の今後の利用手段として、不動産鑑定、法曹界、金融機関関係者との意見交換が行われ、不動産価値を総合判断できる仕組みが必要などの意見が出されました。

情報デザイン学科メディアデザイン専攻

川戸和英研究室のメディア見学会

NHK名古屋放送局見学

川戸研究室卒研セミナー恒例の「メディア見学」。今年の第1回目は、5月13日(火)、NHK名古屋放送局を訪れました。

営業推進局、松坂副部長の案内で、まずは名古屋放送局制作の土曜ドラマ「監査法人」(若杉健司主演、6月14日から7月19日まで、土曜日21:00~21:58で連続6回放送)の収録スタジオを見学。少しの音でもマイクが拾うため息を殺しての見学となりました。

続いて報道スタジオでは、広い報道局フロアや、名古屋北陸地域のローカルニュース枠でニュースを伝えるアナウンサー席や気象予報士の天気予報セットを体験。更に地上デジタル放送用の文字情報制作室、放送送出監視室など、NHKの全てを見学させていただきました。

最後に、名古屋放送局制作の「めざせ!会社の星」という30分番組のディレクターと番組を見ながら意見交換をしました。

学生たちは、番組ディレクターに積極的に質問し、実に有意義かつ活発な見学となりました。



名古屋放送局ニューススタジオセットで



中日新聞制作の「大同工大見学版」の号外

中日新聞名古屋本社見学

第2回目の見学は、5月27日(火)、中日新聞社名古屋本社を訪れました。訪れた時間が、ちょうど名古屋市内配達夕刊を印刷している時間であったことから、輪転機と配送先ごとに自動梱包されて配送場へ送られる「ライン」を見学できました。輪転機の印刷能力は、「時速15万部」。すなわち1時間に15万部の印刷・梱包が可能というわけです。同社の発行部数は、東京新聞、北陸中日新聞などグループ全てで、毎日450万部。これは毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞といった全国紙をも凌ぐそうです。

その後、取材体制や編集体制、そして各種事業などの実際を紹介してもらい、中日新聞の活動の広さを改めて実感しました。帰りに「中日新聞見学版」という「号外」を印刷してもらいました。

情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻
オープニングセレモニーイベント



CAD-RP造形展の様子

平成20年度より、情報学部情報デザイン学科を設置し、新たにプロダクトデザイン専攻を開設。そのオープニングセレモニーが4月8日(火)、本学F棟で開かれ、学内外から40人を超える参加者を集めました。

始めに、奥村博司理事長が挨拶。次いで理事長、澤岡昭学長、井上茂樹プロダクトデザイン専攻主任によって、くす玉が開かれ、「CAD-RP造形展」へ。

本専攻の教授陣がデザインしたCADデータを元に3次元造形機を使って制作した試作品と、今回導入した各種3次元造形機を併せて紹介。これからの新しい時代に相応しいIT技術を駆使するデザインの可能性と面白さを参加者に体感していただきました。

最後はオープニングパーティー。和やかな雰囲気の中、有意義な意見交換がなされました。

なお、開設を記念して4月7日(月)から4月18日(金)に行った「CAD-RP造形展」には、およそ200人の方々にご参加いただきました。

トコトン先生!
大活躍!

■ 澤岡 昭 学長

春の園遊会に招待され、出席しました。



皇族お出ましの30分前までは雨は降っていませんでした

4月17日(休)、あいにく雨の園遊会。

天皇、皇后、皇太子、他の皇族の方々が自身で傘をさして、並んだ出席者の前を会釈しながらゆっくりと移動する形式で会が行われました。

今回は、皇后美智子妃と宇宙ステーションについて話ができた澤岡学長。2004年に続いて2回目の出席でしたが、特に印象に残る園遊会となりました。

なお、今回出席者の目玉は東国原英夫宮崎県知事と横綱白鵬関でした。

南区制100周年記念式典で記念講演
南区制100周年 おめでとうございます!

4月20日(日)、日本ガイシフォーラム レセプションホールで、南区制100周年記念式典が開かれ、澤岡学長(宇宙航空研究開発機構技術参与)が記念講演を行いました。

「宇宙飛行士になりたい私～完成間近の国際宇宙ステーション～」と題し、土井隆雄さんが搭乗したスペースシャトル・エンデバー号についてや、講演前日までの日本の宇宙開発事情などを紹介。リアルタイムな情報を交えて展



開していく澤岡学長の講演スタイルに、およそ500人の参加者は惹きつけられていました。

■ 井上茂樹 教授 (情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻)

3度目の正直
特許に登録されました。

井上研究室では、卒業研究の中から優秀な作品を選び、特許として出願しています。その中で2002年に矢部尊弥さん、矢部泰成さん(共に応用電子工学科を平成13年3月に卒業)の学生2人と井上教授で出願した「インターネットと携帯電話を組み合わせたホームセキュリティシステム」が、2度来た拒絶通知をみごとクリアし、今年の5月30日付けで特許庁から特許として登録されました。

発明の正式な名称は「セキュリティシステム、

セキュリティ制御装置、コンピュータプログラム及びそのコンピュータプログラムが記録された記録メディア」。このシステムは、自宅の安全確認を外出中に携帯電話から行うことができるという画期的なものであり、「安全」というものが重要視されている現代の日本の社会にとっては注目されるべき発明です。



■ 小野宗憲 教授 (ロボティクス学科)

デトロイト国際オートサロン
(DIAS) で講演

3月26日(水)、アメリカのデトロイト国際オートサロン(DIAS)で開催された技術フォーラムで、小野教授が講演しました。

このフォーラムは、最新の日本の鍛造技術による低コスト鍛造加工法ソリューションを趣旨として開催。小野教授は、鍛造における統計、一般的取り組み、及び鍛造事例等を示し、「日本の鍛造企業の優位性」、「精密鍛造加工技術」について講演しました。



昼食後に団欒。左から亀井氏(本学卒業生(88M)、アメリカンアイコク・シカゴ滞在中)、小野教授、黄佑民教授(国立台湾科技大学、DIAS社顧問)、篠崎氏(産業技術総合研究所)

■ 鈴木桂輔 准教授 (機械工学科機械工学専攻)

「安全運転管理者講習会」
で講演

(社)愛知県安全運転管理協議会が主催する「安全運転管理者講習会」が、6月9日(月)蒲郡市民会館、6月23日(月)岡崎市民会館で開催され、今回も鈴木准教授がゲストスピーカーとして交通安全に関する講演を行いました。

特に、岡崎市民会館では、参加者が550人と多く、活発な質疑応答が行われました。

「運転中の携帯電話使用の安全性」や、事故そのものを発生させない衝突回避ブレーキなどの「予防安全技術」、運転行動を記録するドライブレコーダ普及の必要性について、これまでの実験・研究結果をもとにわかりやすく説明しました。



昨年の講演の様子

トコトン先生
大活躍!■ 川戸和英 教授 (情報デザイン学科メディアデザイン専攻)
『PROGRESS』の巻頭コラムを執筆

(社)中部産業連盟機関紙『PROGRESS』
4月号の巻頭ページに川戸教授が登場。

『「社交時代」の企業経営』と題し、最近よくとりざたされている企業不祥事問題や、企業が「社会と社交する」ことの重要性等、高度情報化社会の今における企業の

在り方を述べた。

この機関紙発行後、購読している教授陣からしばしば声を掛けられるとのことだ。

■ 山田幸司 准教授
(建築学科)Archi-clas 01
東海の建築家による
近年のSD Review 入選作品展

6月3日(火)～11日(水)の9日間、名古屋大学 Clasギャラリーで『Archi-clas 01 東海の建築家による近年のSD Review 入選作品展』が開催され、山田准教授の作品が展示されました。

「SD Review」とは、実際に建てるという厳しい現実の中からどのようにひとつの明確なコンセプトとして結実していくのか、設計者の思考の過程をドローイングと模型によって示そうというもの。その「SD Review」で山田准教授は、1998年に新人賞を受賞。今回はその時の作品「角谷邸新築工事—フォアタワー」が展示されました。

また、6月8日(日)には名古屋大学 野依記念学術交流館にて講演会も開催され、山田准教授らが講演。およそ200人の聴衆が集まり、その大半が山田准教授の話聞きに来たとのこと。立ち見が出るほど大盛況の講演会となりました。



山田 准教授(左から二人目)

■ 井上孝司 教授 (機械工学科機械工学専攻)
■ 高山 努 准教授 (化学教室)東海テレビ
「ピーかんテレビ」に出演

▲井上教授 高山准教授▶

高視聴率番組の超人気コーナー「主婦力判定テスト」の実験解説者に井上教授(5回目)と高山准教授(初)が出演依頼を受け、協力出演しました。

■ 大東憲二 教授 (都市環境デザイン学科)

「都市環境デザイン学科 教育プログラム
平成20年度 第1回外部評価委員会」の開催

6月6日(金)本学都市環境デザイン学科会議室で、「都市環境デザイン学科 教育プログラム 平成20年度 第1回外部評価委員会」が開催されました。JABEE認定を受けている都市環境デザイン学科では、定期的に外部評価委員会を開催し、教育プログラムの改善状況のチェックを受けています。委員のメンバーは、市橋忠幸氏(中央コンサルタンツ(株)名古屋支店長)、平櫛督

彦氏(三信建設工業(株)名古屋支店 部長)、坂部孝夫氏(坂部環境技術事務所 所長)、岩田好一朗氏(中部大学 教授・工学部長)、井上茂樹氏(本学 教授・副学長)の5名。今年度はJABEE認定中間審査を受審するので、前回の認定時に指摘を受けた項目に対して行ってきた改善の内容にいくつかの意見をいただきました。

都市環境デザイン学科は、JABEE認定中間審査に向けて、更なる教育プログラムの改善を進めています。

「社土木学会中部支部 「出前講座」で講演

5月15日(木)、安城市文化センターで大東教授が「出前講座」を行いました。対象は、西三河工業用水道協議会の会員(107企業、8市、5町、7商工会議所、6商工会)。「都心の健全な水循環」—なごや水の環 復活プランが目指すもの—と題し講演しました。プランの主旨と位置付け、名古屋市域の現状、なごやの水環境の課題、水の環 復活に向けた取り組み、推進方法・フォローアップなど、名古屋市が平成16年度から3年間かけて策定した「なごや水の

環 復活プラン」の内容を説明しました。



なごや水の環 復活プランの理念と基本方針

平成20年度充填技術センター通常総会の記念卓話で講演

5月23日(金)、あいちNPOプラザで開かれた平成20年度充填技術センター通常総会の記念卓話で大東教授が「濃尾平野における災害時

生活用水としての地下水利用の提案」と題して講演・提案しました。

「第17回 調査・設計・施工技術報告会」で特別講演

6月13日(金)、名城大学 名城ホールで開催された「第17回 調査・設計・施工技術報告会」で、大東教授が特別講演を行いました。

(社)地盤工学会中部支部主催のこの報告会は、調査・設計・施工の過程で生じる地盤工

学にかかわる諸問題と、その対策事例について実務レベルでの情報交換の場として開かれているもの。大東教授は、『「全国電子地盤図」構想と「最新名古屋地盤図・追補版」の電子化』と題し、講演を行いました。

トコトン先生!
大活躍!

■ 笠嶋 泰 教授 (建築学科)

日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞しました。



5月30日(金)、建築会館ホールで「2008年日本建築学会教育賞 贈呈式」が開かれ、受賞者の笠嶋教授が参加、賞状・賞牌が贈られた。

贈呈式では以下のとおり、委員長から授賞業績が説明されました。

「Dラーニング」による建築の企画力・計画力養成の実践

多くの大学における建築学科で実践されている建築設計教育は、架空に設定された課題に対する学生の案を教員の前で発表され、教員がその内容を評価するという、学生と教員の2者による閉じられた中で授業が行われることが多い。

■ 山内五郎 教授

(情報デザイン学科メディアデザイン専攻)

土田 豊 教授 (機械工学科機械工学専攻)

佐藤義久 教授 (電気電子工学科)

平成20年度
「シーズ発掘試験」で採択

科学技術振興機構 (JST) の地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」において、山内教授が提案した「抗菌・超撥水材料の開発と応用」が、平成20年度「シーズ発掘試験(A:発掘型)」として採択されました。



山内教授

この事業は、各府省や大学、地方自治体、独立行政法人、TLOなどに配置されている各種コーディネータが発掘した大学などの研究シーズの実用化を促してイノベーションの創出に資するとともに、コーディネータなどの活動を支援することを目的とした試験制度。本年度は、全国から6966件の応募があり、選定会議において1387件の新規採択課題が決定。本学では、土田教授と佐藤教授も採用され、今後は3名の提案が実用化に向け、契約などの条件が整い次第、研究が開始されます。

この事業は、各府省や大学、地方自治体、独立行政法人、TLOなどに配置されている各種コーディネータが発掘した大学などの研究シーズの実用化を促してイノベーションの創出に資するとともに、コーディネータなどの活動を支援することを目的とした試験制度。本年度は、全国から6966件の応募があり、選定会議において1387件の新規採択課題が決定。本学では、土田教授と佐藤教授も採用され、今後は3名の提案が実用化に向け、契約などの条件が整い次第、研究が開始されます。

依頼者に提案する学生



澤岡学長に受賞報告

なかったプロジェクトにおいても、学生達のアイデアを講習会で発表することで、依頼者である住民や企業、行政関係者などにとっても実際にプロジェクトを進めるヒントとして注目すべきものがあるとの評価も受けている。

これらの課題を行うことで、学生の提案が十分に地域に貢献できる可能性を明らかにし、かつ具体的な依頼者などへの発表を通じ、授業への学生の熱意や緊張感を高め、学習意欲の向上も見受けられた。さらに文部科学省からは「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に「地域活性化へ貢献する大学教育の創生」部門として、採択され、社会にも高い評価を得ている。

大学生の学力や学習意欲の低下の危機が叫ばれ、文化・価値観の多様化による大きな変革の波が建築界にも寄せる中で、今後の社会で一層求められる建築の企画力や計画力といったクリエイティブ能力養成の教育モデルの一つとして評価できる。

さらに、「自立型街灯計画」での電気電子工学科、「イベント用ポスター・マップの作成」での情報デザイン学科など、他学科との連携や教育方法の普及などの点からも評価することができる。

よって、ここに日本建築学会教育賞(教育貢献)を贈るものである。

このような状況に対し、笠嶋教授は、実際に学外から依頼された課題、大学周辺、名古屋市南部の中小工業と住宅地が混在している工住混合地域が抱えている問題、地域の住民や企業ならびに行政から持ち込まれた地域課題を授業としてとりあげ、依頼者に対して直接学生が解決・提案する社会参画型授業を「Dラーニング」と名付け実践してきた。この授業では、学生の作品発表講習会を地域に開放するとともに、そこで得られたアイデアを地域に還元することで、大学教育の活性化を実現している。

この「Dラーニング」は、1998年から10年間で11プロジェクト、延べ21回にわたり実践されている。これらに対する学生の提案は、架空の課題にありがちな空想的で実現不可能な案だけではない。「循環式トイレのデザイン提案」では名古屋のトイレ博での採用、「堀川運河親水計画」ではリサイクル材による親水デッキの設置、「リサイクルベンチの提案と作成」では愛知万博での休憩用ベンチとして採用、「笠寺商店街イベント用ポスター・マップの作成」ではこれらが使用されるなどのように、多くのプロジェクトが実現され大きな成果が得られている。

また、大同町駅周辺の「駅・広場・街路計画」では、この中のエコ街路計画を「自律型街路計画」が引き継ぎ、風車や太陽光発電装置の駅前設置や街灯の設置が実現されている。この様に、派生し、継続したプロジェクトを生んでいることも評価に値する。さらに、実現がかなわ

■ 鷲見哲也 准教授 (都市環境デザイン学科)

「大規模・広域的水災への備えをみんなで考えるシンポジウム」で
パネリストを務める

鷲見 准教授(右から二人目)

3月28日(金)、栄ガスビルで「大規模・広域的水災への備えをみんなで考えるシンポジウム」が開かれました。このシンポジウムは、来

年2009年で伊勢湾台風からちょうど50年の今、国・県・市町・ライフライン関係者等が集まり、スーパー伊勢湾級の台風に伴う高潮による広域災害を想定、その対応、備えなどを考えていこうというもの。

基調報告とパネルディスカッションで構成されており、そのパネリストとして鷲見准教授が参加。南区を取り上げ、「低平地に人口・資産が集中し、現在も高潮災害リスクが高い」ことを紹介しました。また、「伊勢湾台風当時と異なり、3階以上の鉄筋コンクリートの建物が多く、緊急避難がしやすくなっている」点など指摘しました。

トコトン先生
大活躍!

■ 堀 美知郎 教授 (機械工学科先端機械工学専攻)

6年間で5000人が製作体験

燃料電池研究の先駆者の一人、堀教授が6年前、本学に赴任してから力を入れてきた燃料電池に関する教育活動について、6月13日(金)の読売新聞に掲載されました。

自作の手引書で、キットを使った製作体験のほか地球温暖化、水素エネルギー社会への転換の意義についても教えている堀教授の講義。

すでに愛知県内の公立工業高校はすべて回ったそうです。

燃料電池など水素エネルギー社会の実現は、10年、20年単位の長い道のり。将来の科学者を育成するためにも、子どもたちに向けての「環境教育」は重要です。堀教授の講義を受けた高校生からは「地球温暖化が問題になっているので燃料電池に対する関心を多くの人に持ってほしい」といった感想も寄せられているそうです。

世界最大級の化学会社(ドイツ)と共同研究を開始



世界最大級のドイツ化学メーカーで、燃料電池の部品を製造している「BASF」と本学が提携し、中温形固体高分子形燃料電池で共同研究を開始することになりました。

「BASF」は、三重県四日市市にある研究施設内に国内初の「燃料電池用途開発センター」

を開設。今後、燃料電池の国内市場に本格参入していくそうです。

このニュースは、中日新聞(5月24日(土))をはじめとし、いくつかの新聞に掲載されました。

愛知県主催 燃料電池製作教員研修会



製作体験で講師を務める青木真理研究員

5月23日(金)・6月6日(金)・20日(金)、本学で高校教員を対象とした「燃料電池製作研修会」が行われました。この講習会は愛知県が主催となり、堀教授の講演、燃料電池製作実習、燃料電池研究センターの見学、というプログラムで昨年度から実施。今年度は昨年度を上回る86名の参加者となりました。

堀教授による講演は、地球の温暖化や化石燃料(石油)の枯渇、未来のエネルギー事情に関して多岐にわたるもの。石油に代わる新しい水素エネルギーである燃料電池の必要性と、燃料電池の仕組み、さらに、実用化が進む燃

料電池の話題を講演されました。

燃料電池の製作体験は、燃料電池で発電が行われるMEAの製作を行い、そのMEAを組み込んだ燃料電池セルを組み立てて、水素と空気を送り込み、モーターで動くプロペラをまわすことによって発電をたしかめるという実験。実際に発電が行われるまでの先生方の不安そうな表情や、プロペラが回り、うまく発電していることが分かった時の興味津々な様子などが見られました。

終了後は質疑応答の時間があり、熱心に質問している先生や、ぜひ生徒にも体験させたいということで高校への出前授業を要請する高校もありました。



燃料電池車の試乗会も実施

■ 清水郁郎 准教授 (建築学科)

公開講座「癒しと老いの時空間」



5月14日(水)、尾張旭市中央公民館で尾張旭市長寿学園公開講座が開かれました。講師依頼を受け務めたのは清水准教授。受講生は60歳以上の社会人の方々。「癒しと老いの時空間」と題したこの講座はパワーポイント使用してわかりやすく展開されました。

■ 高山 努 准教授 (化学教室)

「国際化学オリンピック」 準備問題の翻訳に協力



高山准教授が、国際化学オリンピック第40回大会(およそ60ヶ国参加)の準備問題の翻訳に協力しました。「国際化学オリンピック」は各国の高校生の代表が一年に一度会し、「化学」の実力を競い合う大会です。すでに39回の歴史があり、これまでに日本は4人が金メダルを獲得しています。国際化学オリンピックの日本代表に選出されるには、まず全国からおおよそ1500人が参加する「全国高校化学グランプリ」で、22人(代表候補)に残る。次に本大会本部が作成した準備問題で事前に学習して最終選抜合宿に参加。そこで最終的に4人が決定されます。高山准教授は、英語で作成されている準備問題を、高校生にもわかるように日本語に翻訳しました。その翻訳した準備問題で選出された日本代表4人は、本年7月にブダペスト(ハンガリー)で行われる本大会に臨みます。

なお、2010年の第42回大会は、日本で開催される予定です。

就職Topics

キャリアセンター
就職率100%維持のために 精力的な取り組みを!

平成19年度 就職状況総括

就職を希望する学生は毎年100%の就職決定

経済情勢、特に東海地区の自動車メーカの好調を背景に機電系の求人社数・求人数ともに前年度比150%の推移を示している。その結果、機電系を中心とした設計分野や情報・電子系でのプログラマー等の採用増員が目立った。

反面、平成19年度の就職戦線でも、求人数の増加はあるものの、企業の採用基準レベルは緩和されることなく、厳しい状況は続いている。

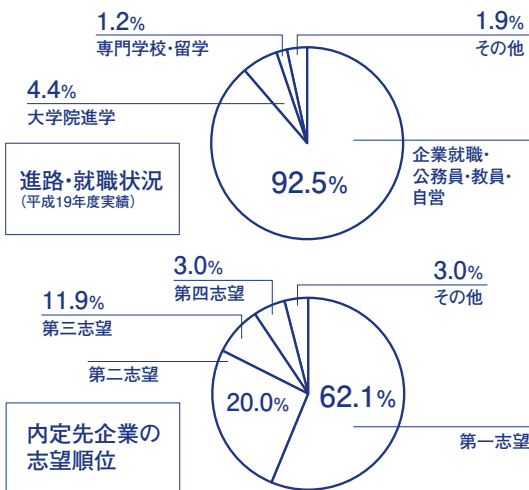
採用選考の時期に関しては「倫理憲章」を唱える企業の増加にも係わらず、平成18年度にも増して早期化が目立った。特に大手企業の中には、選考を年明けに実施し、内定(内々定)を3年時の3月末に出す企業も見受けられた。学生の内定状況もより早期化して、7月時点で60%強と、好調であり、夏休み明けの9月下旬には約90%の学生が進路を決定し



学内企業説明会の様子

た。一方10月以降、内定率の増加は著しく鈍化し、内定獲得状況の二極化がより顕著になった。

大手企業への就職決定率は、学部生42%・大学院生68%と前年を10%余り上回り、学生達の意識が大手企業指向に変化してきた。



例年、学生の就職内定率は100%を記録し続けています。キャリアセンターで就職を斡旋した学生に関しては、毎年100%の就職内定率を記録。また、就職内定者のうち62.1%の学生が第一志望の企業に内定しています。

環境デーなごや2008春の行事 「市民・事業者エコキャンペーン」 学生・教職員およそ130人、 清掃活動にボランティア参加。

6月7日(土)、環境デーなごや2008春の行事「市民・事業者エコキャンペーン」の清掃ボランティアに本学が協力参加。

今回は過去最高の学生・教職員およそ130人が集結し、大学周辺地域の美化に汗を流した。



第9回 金属工房

5月17日(土)、24日(土)の2日間、本学創造製作センターで「金属工房～銀のオリジナルスプーンを作ろう～」を大同工業大学・名古屋市南区役所主催で開催しました。

今年も参加者21人中、リピーターが13人!という人気のこの講座。今年で7回目の参加という方も二人みえました。工房カオス主宰の鬼頭正信講師を招き、小さな銀の粒を叩いて、伸ばして、整えて……“世界に一つしかない自分だけの宝物”作りを楽しみました。

参加者からは、「今回はラシックに下見に行くぐらい気合が入っていました!」、「丸い部分と持ち手のバランスが難しかった!」など、リピーターならではの感想も。「ぜひまた来年も予定をあけて待っていますのでよろしく願います!」の言葉からも伝わるように、みんながしっかりと楽しめた講座となりました。



新任教員
紹介



機械工学科機械工学専攻
教授 平 博仁

4月1日に、今年の新入生と一緒に入学しました。平です。これまでは、川崎重工業の航空宇宙部門に所属し、H-2ロケット、防衛機、ボーイング777や787等のいろいろな機体の開発に、材料部門と設計部門を往復しつつ参加してきました。社外でナノテク開発に参加したこともあります。その中で、最近の787での複合材料適用50%以上に見られるような構造材料のパラダイムシフトー材料革命が、航空機から自動車、そして他分野へ進展していきつ

あるのを実感してきました。

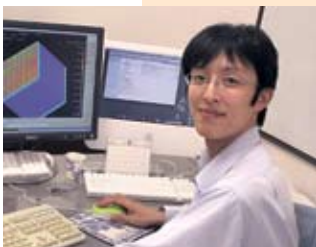
私の専門は、種々の材料を組み合わせていろんな機能を発現させることですが、それを設計に生かす面白さを伝えるとともに、最新の材料動向や実際の設計者の役割そして意地なども紹介していくことで、この大学から社会に行かれる人たちに、自信を持ってこの変化を受け止めていただきたいと思っています。是非私の部屋(A1308)にいらっしゃってください。



機械工学科機械工学専攻
教授 山田 喜一

本学に赴任して早くも3ヶ月が過ぎました。講義は制御工学と自動車工学を担当しています。制御工学は基礎的な科目であるのに対し、自動車工学はいろいろな要素技術を複合した総合的な科目であり対照的です。教育は初めての経験で、どうしたら理解してもらえるかを模索しながら講義を進めています。愛知は自動車関連の会社が多く、何らかの形で自動車に関連した仕事につく人が多いと思いますので、自動車の基礎と新しい技術動向を理解してもらい、今後の仕事に役立ってもらえればと思っています。

私は、今まで自動車関連の仕事をしてきました。開発分野では、Anti-lock Brake SystemやAdaptive Cruise Controlなどの自動車のコンポーネント開発、基礎的な分野では、人間が事故を起こす要因のモデル化とその確率を計算する手法などを研究してきました。自動車は日本の基幹産業であり、自動車産業の更なる発展のためには、環境改善技術の開発とともに、より安全な車の開発が不可欠です。今後も自動車の安全性を向上するための研究を続けたいと思っています。



機械工学科機械工学専攻
講師 町屋 修太郎

4月より工学部機械工学科の講師に就任しました町屋です。私の専門は材料力学、X線や中性子を利用した材料強度です。名古屋大学で博士(工学)を取得しております、名古屋は思い出深い所であります。

大学時代は、セラミックスや表面改質材料の応力評価を行ってきました。その後、原子力機構の方で量子ビームの材料研究の応用研究に向かい、大型溶接材の残留応力評価、マイクロメカニクスを用い

た多結晶モデルの物性評価、微小部分の中性子ひずみ測定の見直し、そして、Nb 3SnやBI系の超伝導材料のひずみ評価の研究を進めてきました。最近では、ITER用の超伝導材の残留ひずみ評価に取り組んでいます。

大同工業大学の若手として頑張っていこうと思っていますので、よろしくお願ひ致します。

DIT
スケジュール



7月

- 18(金) DAIDO CAMPUS No.65発行
- 21(月) 通常期末試験(～7/25)
(海の日)
- 27(日) 夏季オープンキャンパス
- 28(月) 特別期末試験(～8/1)

8月

- 4(月) アメリカ短期留学(～8/27)
- 9(土) 夏季休業開始(～9/20)
- 19(火) AO体験授業
- 20(水) AO体験授業
- 21(木) AO体験授業予備日
- 22(金) 休校日
- 25(月) リーダースキャン(～8/27)

9月

- 8(月) 大学院(修士)入試
- 9(火) 大学院(博士)入試
- 13(土) AO入試(I期)
- 15(月) 敬老の日

- 16(火) 履修登録期間・履修ガイダンス(～9/19)
- 19(金) DAIDO CAMPUS No.66発行
- 20(土) 教育懇談会(松阪・浜松)
夏季休業終了
- 22(月) 後期開講日
- 23(火) 授業日(秋分の日)
第2回就職ガイダンス
：2年次生(～9/26)
- 24(水) 第7回就職ガイダンス
：3年次生(～9/26)
- 27(土) 集中講義・補講日
- 28(日) 秋季オープンキャンパス
- 30(火) 第3回就職ガイダンス
：2年次生(～10/3)

●大学時代の思い出といえばアメリカンフットボール

教務室 森川博光



私の大学時代の思い出といえばアメリカンフットボールに尽きる。バリバリの体育会系で非常に厳しい部活だっただけに、あの頃は社会人になってまでアメフトをやるなんて考えてもいなかった。しかし、4年間は瞬間に過ぎ去り、目標であった「関西リーグ1部

昇格」をあと一步のところまで達成できぬまま卒業を迎えた。どこかにやり残したという気持ちがあったから、アメフトを続けたのだと思う。

そして、社会人9年目を迎えた今年、私が所属する「アドバ名古屋サイクロンズ」は念願のXリーグ昇格を果たした。アメフトを始めて13年目で、ついに日本最高峰、サッカーで言えばJリーグに当たるトップ

リーグに昇格したのである。学生時代からテレビや雑誌で見ていた日本代表クラスの猛者達とガチンコで試合するわけであるから、ワクワクする反面、正直、モンスター達のタックルを受ける恐怖心もあった。

そんな中始まった我々の初挑戦。我々は、応援してくれる全ての人々のために「感謝の一勝」を合い言葉に、挑戦者として全力で立ち向かった。しかし、Xの壁は想像以上に厚く、結果、5戦全敗。骨折、靭帯損傷など多くの怪我人も出し、入替戦に回ることとなった。毎年、これがアメフト人生最後の年になるかもしれないと思いながら、悔いを残さぬよう全力で取り組んでいる。しかし、新たなステージでやり残したことがある今、このままでは終われない。必ず入替戦に勝って残留し、来シーズンこそ「感謝の一勝」を勝ち取りたい。これまでのどんな勝利よりも大きな一勝を。

名古屋サイクロンズ公式HP <http://www.cyclones.jp/>

■新刊書出版

■清水郁郎 准教授 (建築学科)

『地域の生態史 第2巻
モンスーンアジアの生態史
-地域と地球をつなぐ-』

アジアの熱帯モンスーン地域のメコン河流域は第二次大戦後、開発や長期化した戦争など激しい変化を経験してきた。この地域の生態系と文化はといったどのような影響を受けてきたのだろうか……

多様な領域の専門家がフィールドワークを繰り返し、共同で一つ一つの論文をまとめ上げたユニークな論文集。清水准教授は「10. 周辺社会における居住空間の居住空間の歴史変動」を執筆。

アジアの環境問題を考える上で貴重な視点と確たる資料を提供している。

出版社：弘文堂
発行日：2008年5月16日
定 価：5,040円(税込)



■山田幸司 准教授 (建築学科)

『Vector Works 2008
建築CAD』

2次元/3次元の作図機能や設計支援機能、レンダリングプレゼンテーション機能を持ったCADソフト「Vector Works 2008」の操作解説書。基本的な作図・編集テクニックから、実践で役立つ建築・機械図面の描き方までをわかりやすく解説。実際に山田准教授が作成した3Dモデルと建築物を例に図や写真を豊富に使って説明しているの、3次元CADをビジュアルで理解できるようになっている。Vector Works 初心者にも上級者にも役立つ情報が満載である。

また、3次元CADソフトVector Worksの販売元 A&A 社の Vector Works 2008の推薦参考図書になっている。

出版社：秀和システム
発行日：2008年4月23日
定 価：3,990円(税込)



人 事

●採用 【法人本部・大学】

〈事務職員〉(H20.7.1)

加納 勉(総務部 総務室 主任部員 兼 大学事務部 教務室 主任部員)

●異動 【法人本部・大学】

〈事務職員〉(H20.5.1)

堀 照和(法人本部 本部長付)
上田 賢幸(大学事務部 教務室)
信濃 和彦(法人本部 人事室)

【高校】

〈事務職員〉(H20.5.1)

不破 敏雄(法人本部 高校事務室長)

編集後記

ピンチはチャンス！
One for All. All for One.

我がラグビー部にも5人の新入部員が加わり、11年目のシーズンがkickoffしました。今年のチームはスタープレイヤー(中心選手)不在ということもあって、正直心配していました。が、逆でした。その影響はよい方向へ展開、キャプテンを中心に非常に纏まったチームとなりました。大同特殊鋼ラグビー部との週一合同練習、部員の出身高校ラグビー部や本学ラグビー部OBとの土曜合同練習などを6月よりスタート。久々



のBBQも実施。秋のリーグ戦が本当に楽しみです。『ピンチはチャンス!』を今シーズンの合言葉に、苦しい時こそ踏ん張る精神で、創部以来OB・現役みんなの悲願である「リーグ優勝」を成し遂げますっ!